

会山行 No.2413

## 西上州：鋏柄岳南稜

- ◆日程 2023年4月9日(日)
- ◆メンバー L：TY、SD、OT、GT、IZ
- ◆天候 晴 強風

昨日に続き藪岩アルパインの2日目、すっきりした岩稜はクライミングそのものを楽しめた。クライミングの取り付きを間違えたり支点ポイントに迷ったりしたが各自試行錯誤を重ね良い経験となったと思う。今後も継続的に藪岩企画を計画したい。

(記:TY)

栃木から移動してきた4人と合流。林道わきの駐車スペースに降り立ち、正面にそそり立つ岩山を仰ぎみな無口になる。やや急登をいくことしばし、とりつきとおぼしき開けた場所で装備を整え、泥の斜面を登り向こうが切れ落ちた岩の鞍部に出ていよいよ登攀開始。

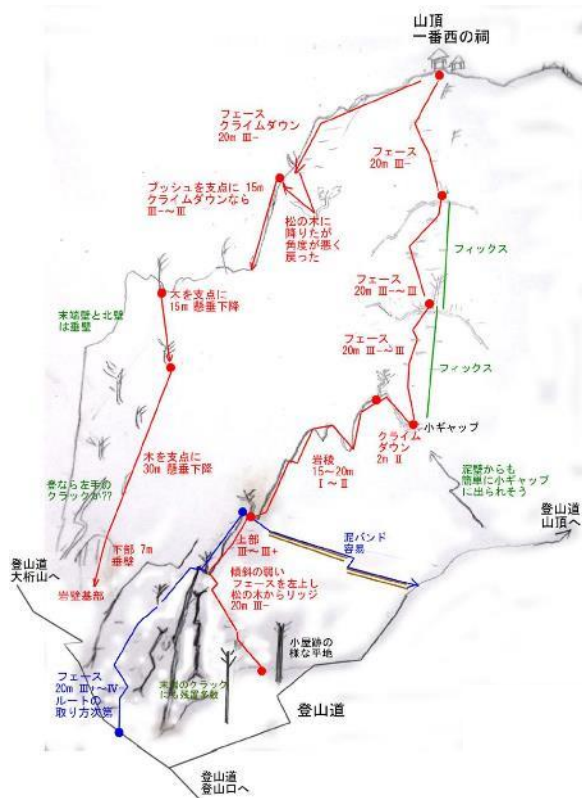
先行はTY・IZ・OTの3人、次にSD・GTペア、6ピッチの予定。体感で10m/秒程の断続的な風の合間をつき、露出度と高度感のある斜面をTYさんが順調にリードしていく。貴重な外岩の経験、あとに続くわたしは張り切りすぎて体が硬い感じもする。TYさんは稜線直下の立木でビレイしてくれており、上が広そうだからここ通過して先行っちゃって、という。あがってみると次のピッチとなる岩稜が見えるはずという想像と異なり、360°開け周囲は切れ落ちている。周りのどこよりもここが高い。

??ここはどこ??「ねえここ、山頂じゃないかなー」「えー、んなわけないでしょ」と続いてきた2人もひとしきり??ののち、「これはもしや」とOTさんが祠のかけから掲げた板には「鋏柄岳」の文字。登り始めたのは真のとりつきよりずっと上で、さらに20m3ピッチの予定を50m1ピッチで登りきってしまったようだ。状況を理解した3人は気を取り直し「イエーイ!登頂ー!」と喜んだ。SDさんGTさんも登ってきて、①下から全ピッチやり直す②西稜をクライムダウンする③とぼしてしまった前半部分のみ登って結果的につなげる。から③を選び一般登山道を下山。刃渡りのように切れ落ちた鎖場のトラバースもあり、結構手ごわい。

改めて真のとりつきに向かいOT・TYペア、IZ・SDペアで登る。GTさんは前日石尊山での筋疲労蓄積のため登山道に戻ってのち合流する。岩壁にはピンクの花が咲き(ミツバツツジかアカヤシオ?)心が和む。口から胃袋が裏返して出てきそうな気持ちで自分の番を待つ。そうしてわたしのリードデビューがやってきた。慎重に、でも肩の力を抜いて、そして脆い岩に衝撃を与えないよう、ジムの人工壁ではかつてないくらい丁寧に手足をかけ静かに体重を移していく。念のため見つけた支点すべてにヌンチャクをかけていたら下からSDさんが「それ7本目だから残りの本数確認したほうがいいよー」と声をかけてくれ我に返る。途中わるい想像をしすぎて次の動作が出なくなったが、岩と足を信じて体を預けやりきることができた。セカンドのSDさんをビレイしながら、姿が見えないなか声のやりとりも大事だけど、ロープのひき具合で相手が今何をしているか想像するのも面白かった(釣りと同じとのこと)。その先の岩稜を越え、朝登り始めた鞍部(小ギャップ)から懸垂下降でとりつきもどきへ降りる。

一生に一度しかない「初めて」のリードはこうして素晴らしい一日となった(今回はOTさんが先に登るのをつぶさにみでのフラッシュだったので、次は初めてのオンサイトを目標に...)。自分の気持ちと体をコントロールすること、パートナーに確保してもらい体一つで岩と向き合えることは幸せなことだと思った。帰ってきて道具を片付けながら、乾いた岩のにおいをかいで'きゅん'となり緊張感や達成感をかみしめている。

いつも「岩に行こう」と声をかけ参加を歓迎してくれる TY さん、懸垂のセットのチェックや支点構築・セカンドのビレイを教えてくれた SD さん・OT さん、そして同じリードデビューの GT さん、ありがとうございました。  
(記:IZ)



CT:駐車場 7:50 - とりつき 8:30/8:50 - 小ギヤップ 9:10 - 山頂 10:30/11:00 - 真のとりつき 12:00 - 小ギヤップ経てとりつき 13:30/14:00 - 駐車場 14:30